



飯能ロータリークラブ会報

飯能河原遊歩道 The promenade along the Hannoriver ※この写真は車乗入れ禁止前のものです。

© photo by Isao Yoshida

“ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を”

RI会長
ロンD.バートン
2570地区ガバナー
中井 眞一郎

継続 変革 簡素 充実

第 2587 例会 2014.3.19

—— 識字率向上月間 ——

天候曇 (NO. 50-38)

会長 吉田武明 幹事 山岸敬司

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 新井君、雨間君

例会場: マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8
☎(042)974-4000

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662
http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 吉田武明会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・卓話 村田早耶子様

【会長報告】

先週の地区会長幹事会で増強の実績を発表。当クラブ「4名」は12クラブ中でも高評価。「中里(忠)委員長のお蔭」と室伏G補佐に伝えたとこRI会長から特別表彰が頂けるとの事。これは画期的な事で今、手続きに入っております。月末には書類を日本RC事務局に提出、必須条件を満たして審査に通れば表彰となります。

G月信が配信、ダウンロードして下さい。

先週いよいよ山川年度が動き始め、山川エレクトはPETSに出席。スムーズにボタンタッチしたい。ご協力お願いします。

【幹事報告】 高橋副幹事

- ・4/2 顔合わせ会、清河園。4/20 地区研修協議会。よろしくお祈りします。
- ・大幅改訂の「2013年手続要覧」を配付。

【委員会報告】

◎雑誌委員会 土屋(良)君
「友」3月号紹介。表紙「寒緋桜とヒヨドリ」。横組P15～東日本大震災に対する東京浅草中央、姫路西、東京恵比寿RCの活動。「タブノキ里親プロジェクト」苗を温暖な姫路に移して育て1～1年半後に再度植樹する計画。縦組P4「はやぶさ」は資料を持ち帰る事ではなく地球へ帰る事が目的だった。重要なのは「解決策を見つける事」。P18「心に響く話し方」「味覚と味覚障害」、P26「ロケット体験学習記」等興味深かったです。

◎親睦活動委員会 吉田(行)君
3/26 点鐘18時、ヘイテイジ、飯能日高合同夜間例会。親睦旅行の申込み本日締切り。

【出席報告】無断欠席なし 福島出席委員

会員数		当日		前々回修正
全数	対象	出席数	出席率	出席率
59名	6名	51名	85.71%	84.48%

【M U】

3/12 (第3G) 吉田(武)君

3/16 (地区) 山川君

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・誕生日祝い有難うございました。 杉田君
- ・結婚記念日お祝い有難うございました。 杉田君、川口君

・妻の誕生日お祝い有難うございます。吉澤君

・早退 齋藤君、市川(洋)君、矢島(高)君

本日計 19,000円、累計額 1,066,136円。

◎26日例会当番は馬場、藤原会員です。

【卓話】

講師紹介 市川(昭)プログラム委員長

学生の時、売られる子どもの問題を知り、20才で仲間と団体を立ち上げ、12年間活動。日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006」(リーダーシップ部門)を史上最年少で受賞、日本青年会議所「人間力大賞」準グランプリ。「カンブリア宮殿」「日本経済新聞」等メディアにも取り上げられています。2011年、東宮御所で皇太子殿下と謁見。「知ってしまった人が取り組まねばならない」との思いで行動を起こされた方のお話は多くのロータリアンの共感を呼ぶ。カンボジア女性の手作りの品も本日展示。

世界の子供達の笑顔のために

NPO法人かものはしプロジェクト
代表理事 村田早耶香様

貧しい国で子ども達が騙されて売られているという問題。19で知り、1人で活動していたが仲間が出来て20才で団体を創った。大学を出てカンボジアに住み始め、職業訓練所を作って今までやってきた。この問題はメディアではあまり伝えられていない。[プロジェクト使用]

大学の授業で紹介された、タイの女の子の新聞記事。貧しい農村の貧しい家庭に住む家族思いのニーチャは、12の時に母が病死、父に仕事は無く、長女の彼女が都会へ出稼ぎに。最初1万円が入り、しばらくは弟妹もお腹一杯食べられる状況だったが、子守りの仕事だと言われ連れて行かれたのは売春宿。殴られながら無理やり客を取らせられ、結局HIVに感染、20才で発病して亡くなる。私とはほぼ同い年の子が教育を受ける事も無く、亡くなっていた。亡くなる前に残していた言葉は「学校に行って『勉強』というものをしてみたかった。彼女が売られた金額は私が着ていたワンピースと同じ値段。調べると、こういった子ども達は(18才未満だけで)世界で毎年200万人ずつ被害者として出ているとのこと。被害に遭った子どもは人生そのものを奪われる。病気感染、ひどい虐待、カンボジア・インド・バングラディッシュでは1回でもそういった仕事に就くと村に戻れない、自殺、トラウマ、そして亡くなる。

大学生の時、一番ひどいと言われていたカンボジアへ。3人に1人が貧困状態で1日1ドル以下の生活。その中で被害者が急増。保護施設には5才の子も居た。「それ位の年齢の子じゃないとダメな人も居て、自分の国では子どもが買えないので法律が弱い国に来て買っている」との話。小さな腕に電気ショックの傷跡が少し前まで濃く残っていたとの事。体の傷は大分治ったがトラウマのためカウンセラーが24時間付き切り。毎日虐待を加えられ自尊心を傷つけられ、親元には戻れない、家族を持つ事が出来ない、差別がひどく結婚出来ない、いじめられるので復学出来ない、と多くが社会復帰困難な状態にあった。7、8才の子が虐待を受け続け、そういった仕事をさせられていると、自尊心がずたずたになり会話も出来ない抑圧された状態になる。カウンセラーも話をするのが最初すごく困難で、「辛かったね、泣いていいんだよ」と涙を流すところからカウンセリングを始めないといけない状態だった。

売春宿を隠しカメラで撮影(2003年・米国で放映)、これが取り締まりされない日常。カンボジア1400万人の中に15000人もの子どもの被害者が居た。誰が買うのかと言うと米国、欧州、日本人。昨年、日本では13才未満の子1000人以上が強制わいせつの被害に遭っている。

どうしてもこの問題をなくしたかったのは、家族思いの女の子、男の子ほど売られていたため、家族が困っていても構わない子なら売られる事はなかった。「家族を助けてい」と最も思った子が出稼ぎで傷つき、家族に二度と会えなくなる。「何とかしないと」と思った。最初の1年はひたすら調べ、講演会に参加し、世界会議で政府の代表に意見を伝える事もやった。でも、訴えかけるだけでは変わらない、現場で活動しなければ変わらないと思い活動を開始。そういう活動をしている団体が日本には無く、これは「気が付いた人がやらなければならぬ」と思った。

まず、職業訓練所を作り、貧しい家庭の女性達が仕事をし、それによって被害に遭う事を未然に防ぐという事を考えた。何も分からなかったが、人を雇ったり事務所を開設したり、1つ1つやってきた。22才初めての一人暮らしはカンボジアのプノンペン。親族は全員反対。「それでもやっていいのか」という状況だったが、あの状況を放っておく事



は出来ないし、やればやる程問題が大きい割に活動している人が少ない事がよく分かったので「これは続けられないいけない」と思い、両親を説得した。

私達の活動内容は、供給される子どもの数を減らす事と、買う人を捕まえる事の2つ。

まず、子どもを「売らせない」ため、大人に仕事を作る。売られ

易い母親、姉を雇用し雑貨を作り、それを観光客に販売、収益を賃金として支払う。カンボジアの農村部では5人家族が月約3千円あれば最低限の暮らしが出来る。月収7千円を得ているので充分暮らす事が出来、子ども達は学校に行ける。私達の「工房」は出稼ぎがすごく多かった場所に作った。子どもの出稼ぎが非常に多かったため、ここの最も貧しい世帯を受け入れていった。現在、10万人が暮らす所にまで広げ、この地域から子どもの出稼ぎは出なくなった。学校に行けていなかった子どもは売られ易かったが、今、小学年齢の子の就学率は100%。14人から始まった工房には現在135人が働きに来ており、最貧困層の全員がカバー。子ども達は3食食べられるようになり、学校に通い、将来を変えていく事に繋がっている。

「買わせない」ためには子どもを買った人を捕まえる必要がある。15000人の被害者に対し逮捕者は82件。警察官に犯罪を知ってもらい、捕まえる能力を上げるため、カンボジア内務省とパートナーシップを組み、私達が資金を出してトレーニングを実施。「新しい法律では子どもは守る対象、きちんと加害者を捕まえて下さい」という研修を全州の警察官に行う。現行犯逮捕の仕方、証拠品押収の仕方等、地道に教えていったところ、逮捕件数は9年で9倍に伸び、720人が逮捕された。海外から買いに来ていた人達が一斉にカンボジアから引いている。子どもを雇っていると摘発され営業出来なくなるので、「売っていない」という売春宿が増えてきた。NGOが国を相手にするのは変な感じだが、カンボジアは今までNGOや国際機関の支援を受けてこういった事をやっていた。私達も途中から要請を受けて入り一緒に取り組んでいる。国家予算の3割は海外からの支援で成り立つ国。予算を付ければ実施が出来、逮捕件数も上げられるという状態だった。私達だけでは専門技術的なところが分からないので、日本の警察OBにもご協力頂いている。

国と一緒に取り組む事と、草の根から貧困を削減する事で10年で被害者は15000人から1000人以下に減ったと言われる。これはいろいろな人がいろいろな立場から協力してくれたお蔭。国がやる気を出して取り組んだり、それを民間レベルで支えたり、日本企業も100社程進出、雇用を生み出してくれている。私達が活動を始めた時はこの問題は30~40年かかると思っていたが10年で状況は改善された。難しい国際問題も、いろんな人の力がちゃんと集まればちゃんと変えていけるんだというのがカンボジアの経験から分かった。

皆様にも是非協力して頂きたい。日本で暮らす私達は世界の中でもお金持ち。1万円の支援は10万円近い支援となる。資金的に支えて頂いたり、この問題に関心を持って頂き、いろいろな形で協力して頂ければ、現状を変えていくことに繋がる。インドには現在も70万人近い被害者が居る。雑貨の購入、会員としての月々のご支援、また、法人としてのご支援を頂けたら大変有難い。個人サポーター会員は月1000円から。現在私達は3000人の方に支えられているが、今後6000人の方に支えて頂ければインドでも充分活動が出来る。共感を頂けたら是非会員となつてご支援頂く事をお願い申し上げます。

※次週の例会案内は省略。